

矢作川流域圏懇談会通信

全体会議 vol. 1



発行日：令和7年1月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第14期 全体会議を開催しました！

令和6年11月26日（火）に矢作川流域圏懇談会 第14期 全体会議を開催しました。会議では、今期の活動の振り返りと来期の活動目標について意見交換しました。

日時：令和6年11月26日（火）14:00～16:00

会議場所：西三河総合庁舎 会議室 704

参加者：38名 ＊事務局含む



◆主な会議内容

1. 矢作川流域圏懇談会とは（設立趣旨・規約・情報公開）



矢作川流域圏懇談会の設立要旨・規約等について説明しました。

例年は年度末に実施する全体会議を区切りとして年度ごとの目標を設定していましたが、昨年度より11月に全体会議を実施しているため12月1日～翌年11月30日の1年を1つの”期”として整理することとしました。

今年は設立から15年目ですが昨年（14年目）は中間報告会としているため、第14期の継続中となります。

第13期：令和4年4月1日～令和5年3月31日（昨期）

第14期：令和5年4月1日～令和6年11月30日（今期）

第15期：令和6年12月1日～令和7年11月30日（来期）

2. 第14期の振り返り



各部会の第14期の活動を報告しました。

市民部会：令和5年9月に開催したバスツアー、令和6年2月に開催した公開講座等に加えて例年参加している矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭では様々な関係団体と協力しました。市民の方にも理解しやすい「食」をきっかけに矢作川流域圏懇談会の活動内容や流域の課題を知っていただきました。

山部会：「流域圏担い手づくり事例集」では海をテーマに取材を行い、取りまとめました。令和6年7月には事例集交流会を開催しました。「山村ミーティングと森づくりガイドラインの協働」では「森の人をつなぐ」を発行し、様々な方に情報発信しました。「木づかいガイドライン」では新たな取り組みとして流域圏に含まれるすべてのエリアでどのような木づかいが行われているかを把握し、流域産材というものを広めていくことを報告しました。

川部会：テーマ別の活動目標に対して活動計画を策定していくために意見交換や「総合土砂管理」、「水力発電」、「流域治水」に関する情報共有・意見交換を行いました。

海部会：干潟・ヨシ原再生箇所の見学や三河湾の貧栄養化について情報共有・意見交換を行いました。

3. 第15期の活動目標



各部会で設定した活動目標を報告しました。

市民部会：流域連携をテーマに①食と農業、②地域部会と連携、③新たなつながりの3つを活動目標としました。

山部会：次の10年を見据えながら、山部会の展開を模索するとともに、4つの活動テーマ（①流域圏担い手づくり事例集、②山村ミーティング、③森づくりガイドライン、④木づかいガイドライン）を軸として、情報共有と意見交換を行い、他部会との連携を通し、流域としての課題解決に貢献します。

川部会：山・海・まちをつなぐ河川としての役割を認識し、他部会や外部団体を巻き込みつつ、行政や市民団体などが参加したくなるような部会を創造するために3つの活動テーマに取り組みます。①河道に関する課題（本川・支川）、②流域圏に関する課題、③交流・共有に関する課題

海部会：「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかるための4つの活動テーマ（①豊かな海の再生に向けた取り組み、②海と人との絆再生、③ごみの問題、④土砂の問題）に取り組みます。

◆話し合いでの主な意見（・意見 ▶回答）

●第14期の振り返り

- ・矢作川感謝祭や三河湾大感謝祭を通じて海苔や流域の食材がおいしいことを市民の方々に知っていただく機会になったと考える。様々な問題、課題が隠されていて、課題を乗り越えていくためにはまず現状を知っていただくことが大事だと考える。（鈴木）
- ・中部電力さんに毎回のように出席していただけているのはとても大きなことだと考える。矢作川には多数のダムが存在し、様々な問題にも関わっているため、分からないことをすぐに聞きやすい環境になっている。一方で漁業組合の方の参加が少なかったため今後増やしていきたい。また、内容としては単に水だけではなく、土砂や窒素・リン等の水が運ぶものも含めて議論が進んでいけばよいと考える。（内田）
- ・海部会としては山部会と連携して「流域圏担い手づくり事例集」を作成できたことが良かったと考える。また、事例集交流会を通じて海の問題を話し合う機会ができて、議論した課題等をさらに広げていく必要があると考えている。また、土砂の問題に関しても、マリコンの方に部会でご説明していただき、現場見学会を実施し、新たな課題を話し合うことができた。今期はWG参加者が減少傾向にあるため、来期は参加者が多くなるように盛り上げていきたい。（青木）
- ・川部会からの発表にもあったように川の関係者が十分に参加できていないと感じる。今後もネットワーク化を図り、連携していくことが重要と感じる。矢作川の歴史的な背景として矢水協をはじめとした様々な団体・市民が議論しながら川・流域の開発が進んだ。現在は懇談会の中であらゆる関係者が議論できるような場づくりを意識していただきたい。（辻本）

●第15期の活動目標

- ・市民部会としてはできるだけ多くの市民の方に矢作川の豊かな自然を知っていただき、その中で問題・課題にも気づいていただきたい。流域は衣食住すべてにつながっているため漁業者、農業関係者や林業関係者等の様々な方と連携していき、幅広く、深く知っていただけるように活動をしていきたい。他にも農業大学や水産高校とも交流できれば良いと考える。（鈴木）
 - ・総合土砂管理については川部会の中で関連する問題がたくさんあるので、真剣に議論していかなければならない。また、「流域総合水管理」に向けて下水道等の海へつながっていく問題についても川部会と海部会で連携しながら議論してかなければならないと考える。（内田）
 - ・海の貧栄養化の問題については様々な取組がされているが、それを流域市民の方々にあまり伝えることができていない。現状でも”きれいな海”を求めるようなコメントが多く、海の現状と課題を正しく伝えるようなイベントを市民部会と連携して実施したい。また、近年の集中豪雨によってシルト・粘土分が海に堆積している等で、漁業に影響を及ぼしている可能性も考えられる。そのあたりの情報共有も実施したい。（青木）
 - ・山部会の出発点である「矢作川の恵みで生きる」というテーマは山部会に限らず、すべての部会で認識すべき話だと考える。また、懇談会の活動による間接的な効果を共有・認識する必要があると感じる。懇談会が直接やっていなくても、懇談会によって構築されたネットワークを通じて様々なつながり、イベントが発生している。これらのネットワークをどのように活用していくかが重要と感じる。（近藤）
 - ・安城市は流域治水プロジェクトで位置づけられている”田んぼダム”に取り組んでいる。農業関係者と連携しながら事業を進めている中で、”田んぼダム”を実施している田んぼで採れたお米を学校給食で食べていただき、”田んぼダム”の取組を知っていただく活動をしている。矢作川感謝祭等でおにぎりを出されているということで”田んぼダム”とのコラボもできるのではないかと考える。（向井）
- ▶是非お願いしたい。（鈴木）
- ・各部会が精力的に活動しており、それぞれの成果を確認することができた。これからは各部会の成果をつないでいく必要があると感じる。懇談会という仕組みでものを動かしていくことは難しいが、様々な動きが色々なところで芽生えている。全体会議を通して報告していただくことで、全員に周知し、それらをつなげることが非常に重要であると感じる（辻本）



◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会 事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西 1-6 国土交通省 豊橋河川事務所 事業対策官 蔭山、係長 小池、技官 中野

TEL 0532(48)8107

*矢作川に関する情報は、国土交通省 豊橋河川事務所 流域治水課 (cbr-toyo-chousa1@mlit.go.jp) までお送りください。

